

マンパワーによる戸隠森林植物園の保全整備について

北信森林管理署 一般職員
一般職員
主任森林整備官

まつばら ちなつ
○松原 千夏
まつもと なぎさ
○松本 風彩
はやし ゆういち
林 勇一

1 はじめに

北信森林管理署管内にある戸隠森林植物園は、開園以来、多くの方々に自然散策や野鳥観察を楽しんでいただいています。

しかしながら、特に木道の遊歩道等が経年により老朽化し、早急な整備が必要になったことから、今回、関係する団体や多くのボランティアの協力のもと木道等の保全整備を行ったので、その経緯と取組について紹介します。

2 植物園の概要

戸隠森林植物園の概要について説明します。

当園は、長野県長野市北部の戸隠山の山麓、標高約1,200メートルの高原地帯にある戸隠山国有林内にあり（写真－1）、たくさんの人に森と親しんでもらうことを目的に、昭和39年に長野県で開かれた第15回国土緑化大会及び植樹行事を記念し、昭和43年に開園しました。

植物園の総面積は71.34haで、国が管理している区域は59.86ha、残りの11.48haは長野県が管理しています。

また、周辺には戸隠神社の中社・奥社、鏡池やキャンプ場、戸隠そば等もあり、年間を通じて、多くの人が訪れる県内有数の観光スポットとなっています。

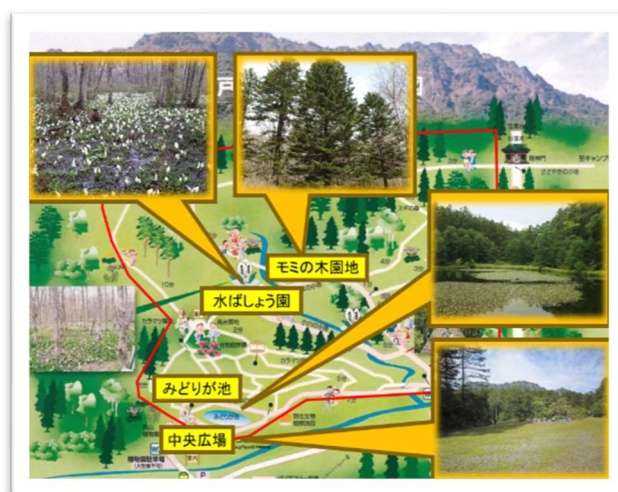
次に、園内について説明します。

園内には、モミの木園地や水ばしょう園をはじめ、中央広場やみどりが池などがあり（写真－2）、自然散策を楽しむ遊歩道も整備され、遊歩道の一部にはバリアフリー木道（以下「木道」という。）も設置されていて、豊かな自然を守りながらも、様々な来園者に配慮した構造になっています。

また、当園がある戸隠の高原地帯は、数多くの野鳥が生息し、渡り鳥や留鳥を合わせると、



写真－1 戸隠森林植物園位置



写真－2 戸隠森林植物園内

園内で観察できる種類は通年で100種類以上にもなり、県内外からバードウォッチャーが訪れる日本有数の野鳥の宝庫となっています。

春のミズバショウやカタクリをはじめ、100種類を超える多くの草花も見られ、非常に自然豊かであることから、森林浴や野鳥観察等に活用するため、戸隠・大峰自然休養林に指定され、「日本美しの森 お薦め国有林」としても、多くの人々から親しまれています。

3 課題を取り上げた背景

平成12年から16年にかけて、北信署が管理する区域で約1,900mの木道やバイオトイレ等を改修整備しました。

ところが、それから15年ほど経過したところ、湿地帯に整備された木道は腐食が進み、さらには冬の多大な積雪によって負荷がかかり床材の土台が裂け始め、木道全体が傾いたり（写真－3）、落ち込んだりする状況（写真－4）が各所に見られるようになりました。



写真－3 全体に傾いた木道



写真－4 落ち込んだ木道

破損等により改修が必要な箇所は、杭で支えたり、新しい床板に張り替えるなど、さまざまな措置を試みましたが、さらに木道の老朽化が進み、作業を続けるごとに、多くの労力と資金が必要になってきたため、令和元年に「日本美しの森 お薦め国有林」では全国で初めて「オフィシャルサポーター制度」を導入し、木道の老朽化に伴う改修作業等を行いました。

「オフィシャルサポーター制度」とは、戸隠・大峰自然休養林保護管理協議会の活動の趣旨に賛同する企業と協定を結び、レクリエーションの森における美化活動や森林づくり活動等に必要なボランティアや資金、資材等の支援を受ける制度です（写真－5）。

こうした制度を活用し、オフィシャルサポーターに支援していただきながら、改修作業などを行ってきました。

しかし近年、整備が行き届かない木道も増え、オフィシャルサポーターの支援だけでは、追いつかなくなり、このままでは利用者の安全・安心を確保できないと判断し、老朽化の激しい箇所を一部通行止めにしたりと、更には、危険な箇所の木道を撤去する等の措置を余儀なくされました。

そこで、こうした状況を打開するため、今後の植物園の保全整備のあり方について当署と園の管理運営に携わる関係協議会が連携し、検討を重ねてきました。

関係協議会は、園内の募金箱を管理しながら、施設の整備や保護などを行なう戸隠森林植物園保護管理協議会。関係機関の連絡調整と、県が管理している区域の保全管理活動や森林学習館「もりのまなびや」の運営を行っている戸隠森林植物園管理運営協議会。戸隠森林植物園を含む、戸隠・大峰自然休養林全体の保全と、安全で快適な利用のため、休養林内の標識類の設置や保全整備・管理活動を行っている戸隠・大峰自然休養林保護管理協議会があります。（写真－６）

それぞれの協議会の役割を越え、「野鳥の宝庫で地域の重要な観光資源である自然豊かな植物園をマンパワーによる手作りの保全管理活動により守っていこう」という目的のもと、北信森林管理署職員、関係機関、団体などによる作業を令和４年度から実施しています。

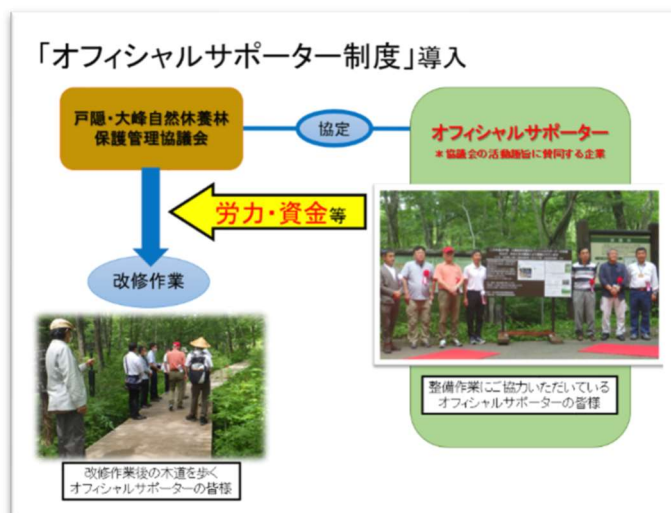
４ 保全整備の概要

主な整備活動として、開園準備作業があります（写真－７）。

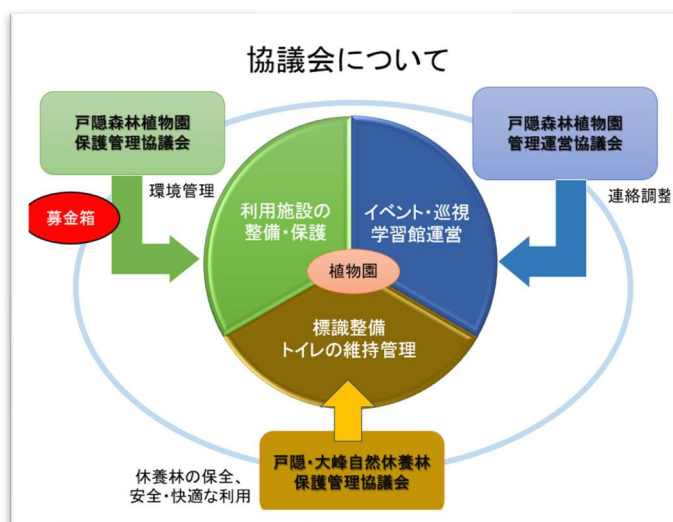
例年、開園準備作業は４月中旬に行っており、多くの関係機関や団体、また、戸隠森林植物園の保全活動の趣旨に賛同していただいた団体の皆様にもボランティアとして参加していただいています。

令和４年度は参加者が約５０名でしたが、令和５年度は約７０名、令和６年度はさらに多くの方に参加していただき総勢約９０名での作業となりました。

この作業では、遊歩道の階段や木橋の設置・補修、遊歩道へのウッドチップの敷設、グリーンロープの設置、看板標識類の設置など、植物園の開園に向け多岐にわたる作業を行いました。



写真－５ オフィシャルサポーター制度



写真－６ 関係協議会構成図



写真－７ 開園準備作業の様子

また、作業に当たり、資材やウッドチップの提供、資材運搬など、オフィシャルサポーターや関係団体から多大なるご支援、ご協力をいただき、さらには、様々な企業団体の方々にもボランティアとして参加いただきました。

多くの方のご協力により、植物園の自然環境に馴染んだ手作り感漂う木橋や、安全で歩きやすくなった遊歩道など園内は新たな衣装をまとっていくように整備され(写真－８)、来園者の方々からも「遊歩道が非常に歩きやすくて安心」「ウッドチップの上はフカフカで足に優しい」「新しく架けた橋がしっかりしている」などの声も多く聞かれています。



写真－８ 整備された木橋、遊歩道

開園中においても、企業団体や地元住民等がボランティア活動として、園内の美化活動やウッドチップの敷設、木道の清掃などの保全活動を行なっています。

また、野鳥の住み家の保全管理活動として、雪が残る開園前の植物園では、60年ほど前から地元の戸隠中学校の生徒による小鳥の巣箱掛けを実施しており、園内の巣箱の清掃や老朽化した巣箱の撤去、生徒自ら作成した新しい巣箱の設置などを行っています（写真－9）。



写真－9 戸隠中学生巣箱かけの様子

マンパワーによる保全・整備の効果などについて、今年度で3回目となるこの取組が、各種メディアから注目を浴び、この活動の意義や作業の様子を広く一般市民にPRすることができました。

また、テレビ放送、新聞の掲載記事、広報誌「中部の森林」を見た管内の一部の自治体の方からも、同様の活動を是非とも自身の地域でも実施してみたいとの声も聞かれました。

5 将来の展望

令和4年度から実施している関係機関、団体、ボランティアの方々による植物園での作業の取組については、今後も各関係機関等と情報共有、情報交換を日常的に行い、連携を図りながら継続して実施していくとともに、この戸隠森林植物園での取組をモデルケースとして、管内の自然休養林やレクリエーションの森の施設等においても、関係者等のご支援、ご協力をいただきながら、保全整備活動を行っていきたいと考えています。

また、植物園については、歩道等の大きな修理を終了させた後、将来的に協力金や募金収入等により自立的な管理運営ができることを目標とするとともに、今後、関係団体への遊歩道の貸付や施設等を譲渡すべく、北信森林管理署としても関係機関等と調整を進めながら、開園準備作業など様々な形で戸隠森林植物園の保全管理活動に積極的に関わっていきたいと考えています。

6 おわりに

令和4年度から戸隠森林植物園の活動にご支援、ご協力をいただいている、関係団体やボランティアの皆様（写真－10）に、心より感謝を申し上げるとともに、多くの観光客の方々に植物園や戸隠地域でのひとときを、安全・安心に楽しく過ごしていただけることを願っています。



写真－10 関係団体、ボランティアの皆様

参考文献

長野県公式ホームページ（第15回植樹行事および国土緑化大会）

<https://www.pref.nagano.lg.jp/shinrin/sangyo/ringyo/zenkokushokujusai/kako-taikai.html>

戸隠観光協会 戸隠イースタンキャンプ場

<https://togakushi-21.jp/spot/362/>